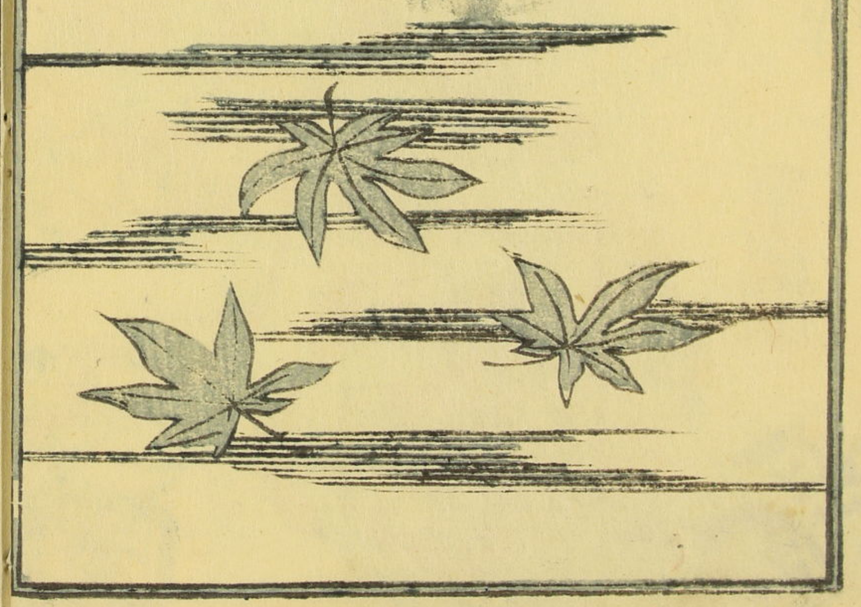
へ13
3702
23

門へ13
號 3702
卷 23

為永春水誌

妙陽保昌記



帝國圖書館藏

利を好む者ハ財珍を與えて迷いし色と好む者ハ美女を與えて
これ或惑ハたと余が君子も道をもてせば欺くるを況て小人ある者
をや既ハ本編ハ著を處の鵜埜黒平が唆誘さまて右傳父子ハ計るの一段
淫慾利欲を離るる支なし原より右傳ハ小戈次たる時犯せる罪れ
ありしを知らせよ娘子水次郎ハ罪なくて命を隕し名を汚せい佛家ハ
所謂宿業ハ遮莫渠ハも又罪あるを門之助と公然と討得るとこ乃
かるを知り暗殺做んとするより終ハ養父ハ害ふハいる實に
已ハ出たるもの已に復らざる支なし何と穉兒等合点欲し

為永春水誌

寶齊備書

安政七年
丙子冬發兌

楠右傳正儀
若黨
鴉野黑平
女兒淡子

歌瀧水次郎

三十編のつゞき

右
左
黒
赤

書籍
矛

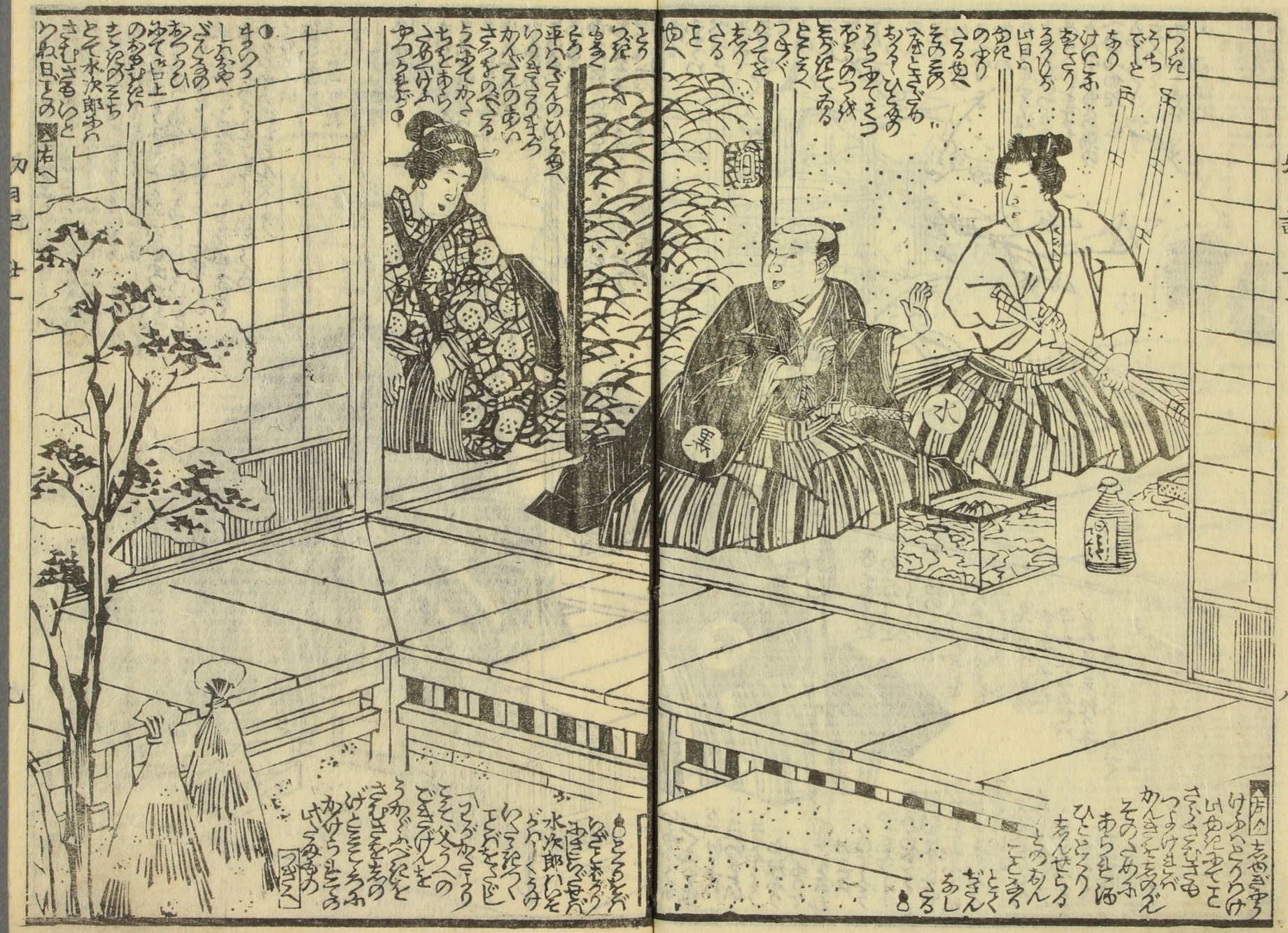
異

二

淡

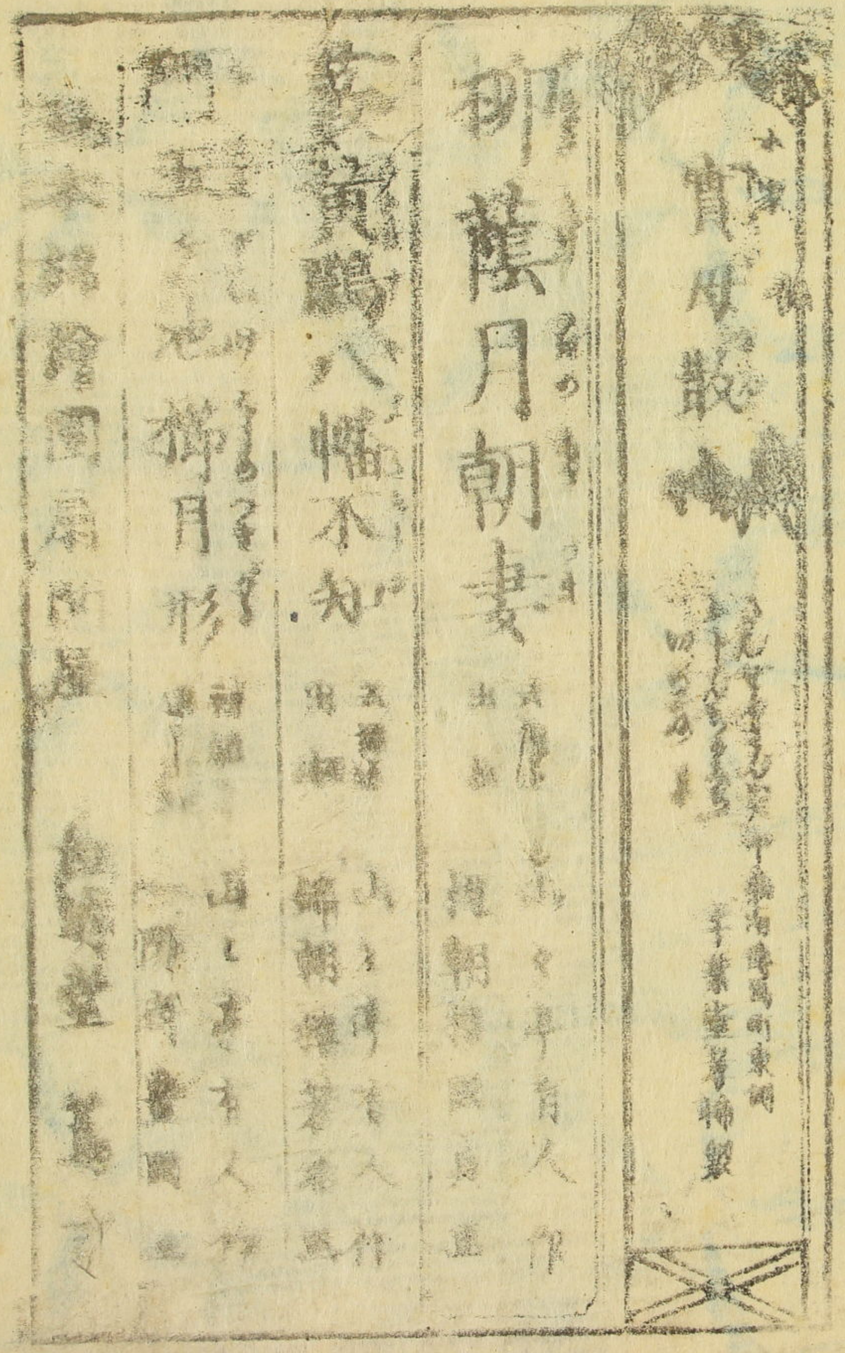
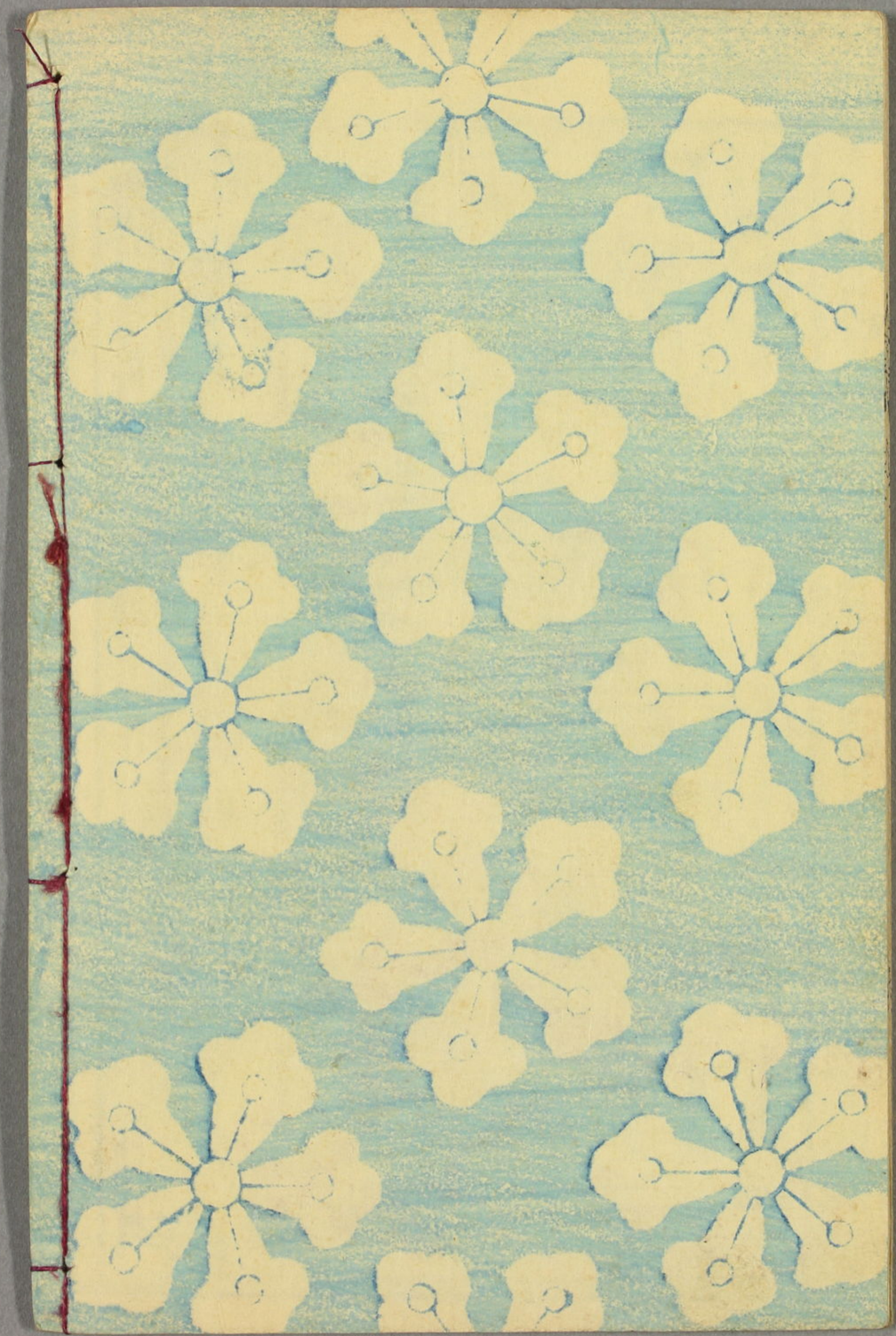
黒

左へ
右へ


水次郎

水
果

春水作
國芳畫


柳葉月朝妻
五代目柳月形